

2019年4月から伊豆エリアにて実施する日本初の観光型 MaaS 実証実験の詳細が決定

—専用アプリケーション「Izuko」で国内外観光客の利便性向上と地域活性化を目指します—

東京急行電鉄株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社ジェイアール東日本企画

東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社ジェイアール東日本企画は、国内外観光客が鉄道、バス、AI オンデマンド乗合交通、レンタサイクルなどの交通機関を、スマートフォンで検索・予約・決済し、目的地までシームレスに移動できる2次交通統合型サービス「観光型MaaS」の実証実験を、2019年4月から「静岡デスティネーションキャンペーン」にあわせて伊豆エリアにて開始します。

1. 期間

- ・Phase1: 2019年4月1日～6月30日（「静岡デスティネーションキャンペーン」と同期間）
- ・Phase2: 2019年9月1日～11月30日 計6カ月間

2. 実験方法

(1) 展開エリア: 東伊豆および中伊豆エリア(右図参照)

(2) 使用する専用アプリ

アプリ名: Izuko(「イズコ」、日英2カ国語対応、ダウンロードとアプリ使用は無料)

(3) 専用アプリ「Izuko」の各機能(詳細は別添1・2・3参照)

【検索】

- ・鉄道 伊豆急線全線(伊東—伊豆急下田)、伊豆箱根鉄道駿豆線全線(三島—修善寺)
- ・路線バス 展開エリア内を運行する伊豆箱根バスと東海バス

【予約】

- ・AIオンデマンド乗合交通(別添4参照)、レンタサイクルとレンタカー(リンク連携)

【決済】

① デジタルフリーパス2種類(ともに有効期間2日間)

○「デジタルフリーパス・Izukoイースト」: 3,700円(右図赤線)

乗り放題: 伊豆急線全線+伊東市内および下田駅周辺路線バス

○「デジタルフリーパス・Izukoワイド」: 4,300円(右図青線)

乗り放題: 伊豆箱根鉄道駿豆線全線、修善寺駅および下田駅周辺路線バスなど

片道乗車区間(※): 東海バス(修善寺—河津)、伊豆急線(河津—伊豆急下田—伊東)

② 観光施設入場券: 小室山観光リフト、下田港内めぐり、下田海中水族館など5施設(予定)

【その他】

- ・デジタルマップ(飲食施設や携帯充電箇所などを多言語案内)、画面提示で約30施設の観光施設割引

※何度でも途中下車が可能

3. 期待される効果

- (1) 点在する伊豆エリアの観光拠点間のシームレスな移動実現による周遊促進と地域活性化
- (2) IoT活用による交通・観光事業などの最適化、キャッシュレスや多言語対応といった観光拠点の抱える課題解決など
- (3) (1)(2)を通じたPhase1(「静岡デスティネーションキャンペーン」期間)とPhase2での新たな顧客体験価値の提供

4. 推進体制(別添5を参照)

・実行委員会形式で推進(名称:「伊豆における観光型MaaSの実証実験実行委員会」)

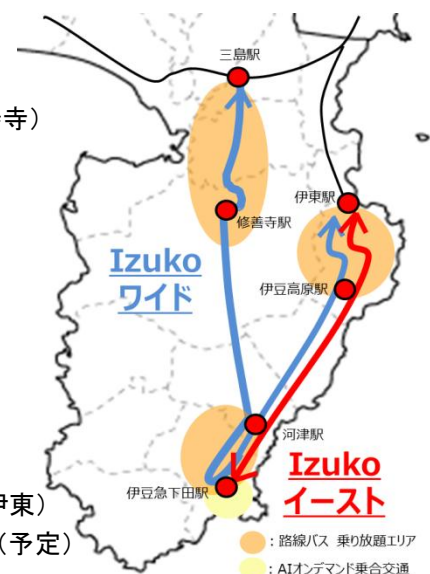
【会長】(一社)美しい伊豆創造センター 【委員長】東京急行電鉄(株)、(株)ジェイアール東日本企画

【副委員長】東日本旅客鉄道(株)、楽天(株)、伊豆急行(株)

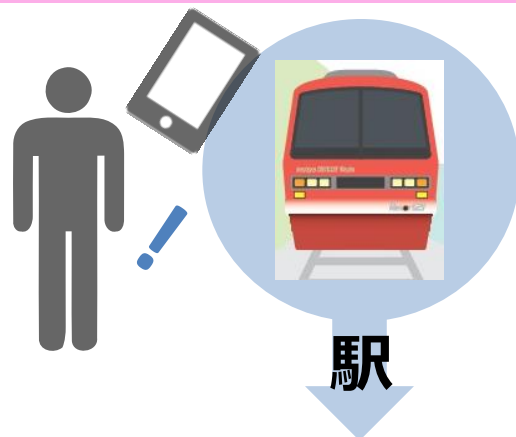
【推進内容】調査事業、商品・アプリ開発事業、広報宣伝事業、次世代2次交通実証実験事業 など 以上



Izuko アイコン



【別添 1】伊豆における観光型MaaS・実証実験イメージ



路線バス



オンデマンド
交通



レンタカー



レンタ
サイクル

2次交通予約決済アプリ



観光施設



宿泊施設

事業主体



観光支援

Rakuten

【別添2】専用MaaSアプリ「Izuko」の画面イメージ

※ 画面は開発中のサンプルです。



【別添3】専用MaaSアプリ「Izuko」の各機能（PHASE 1）



経路検索



鉄道



路線バス



決済

■ デジタルフリーパス（2種類）

①「デジタルフリーパス・Izukoイースト」：3,700円

乗り放題：伊豆急線全線＋伊東市内および下田駅周辺路線バス

②「デジタルフリーパス・Izukoワイド」：4,300円

乗り放題：伊豆箱根鉄道駿豆線全線、修善寺および下田駅周辺路線バス等

片道乗車区間：東海バス（修善寺-河津）、伊豆急線（河津-伊豆急下田-伊東）

※上記片道乗車区間は何度でも途中下車が可能

■ 観光施設入場券（5施設）

- ・ 小室山観光リフト、下田港内めぐり、下田海中水族館等



予約



オンデマンド交通



レンタサイクル



レンタカー

※ レンタカー・レンタサイクルはリンク経由



下田「旧市街」で地元タクシー会社と協働、交通空白地帯を埋める新しい交通を試行

- 乗降場所：下田「旧市街」内の約20カ所
- 運行会社：伊豆急東海タクシーはじめ地元3社
- 使用車両：ジャンボタクシー（1～2台/日）
- 乗車料金：PHASE 1は無料で試験実施

【乗客】スマホで行先を選び配車

【運転手】AIが最適走行ルートを表示



【別添5】実行委員会の推進体制

伊豆における観光型MaaS実証実験実行委員会

【会長】（一社）美しい伊豆創造センター
 【委員長】 東京急行電鉄（株）、（株）ジェイアール東日本企画
 【副委員長】 東日本旅客鉄道（株）、楽天（株）、伊豆急行（株）

【委員】
 東海自動車(株)、伊豆箱根鉄道(株)、伊豆箱根バス(株)、(株)伊豆クルーズ、
 （一社）伊豆半島創造研究所、静岡県タクシー協会伊豆支部、
 JR東日本横浜支社、JR東日本レンタリース(株)、
 静岡県庁 交通基盤部・文化観光部

各種協力

参加団体

資金

補助金

協賛金

事務局業務委託

事業・収支報告

実行委員会事務局
 （株）ジェイアール東日本企画

事務局運営事業（事業計画、収支作成、進捗管理、実行委員会運営等）

① 調査事業

② 商品・アプリ開発事業

③ 広報宣伝事業

④ 受入体制整備事業

⑤ 次世代二次交通
実証実験事業

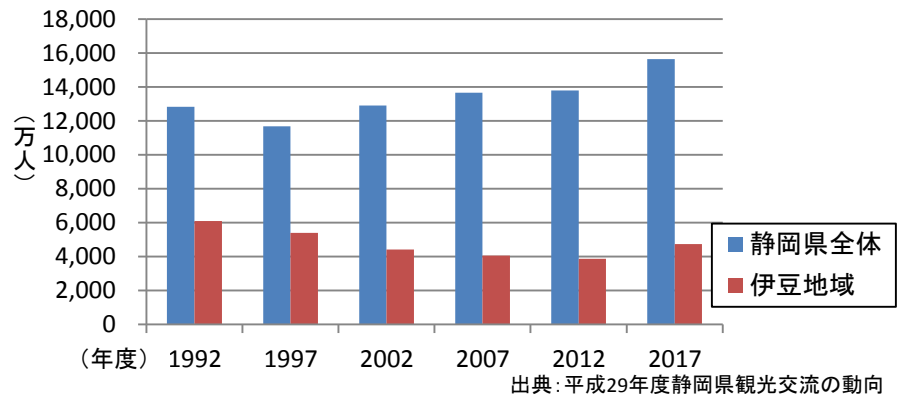
活動期間：2019年1月17日～12月31日（予定）

- ✓ 多くの観光資源が集まる魅力的な地区。2012年から観光客数も再び微増
- ✓ 高齢化率は約3割、人口減も進む。観光客・住民の2次交通維持が課題

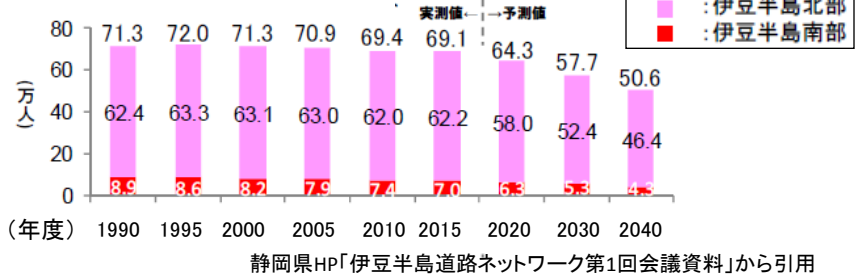
■主な観光施設



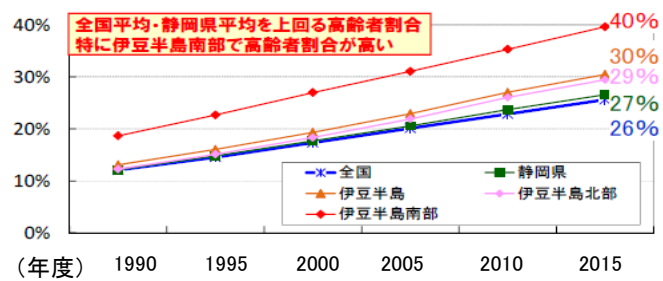
■観光交流客数の推移



■人口の推移



■高齢者割合の推移



【別添6】伊豆の現状と課題②

- ✓ 鉄道5路線、バス390系統、タクシー数社がありながら、来訪手段は「8割が車」
- ✓ 2次交通を利用した周遊促進が、交通事業者含めた地元経済にとっての課題

■主な公共交通網

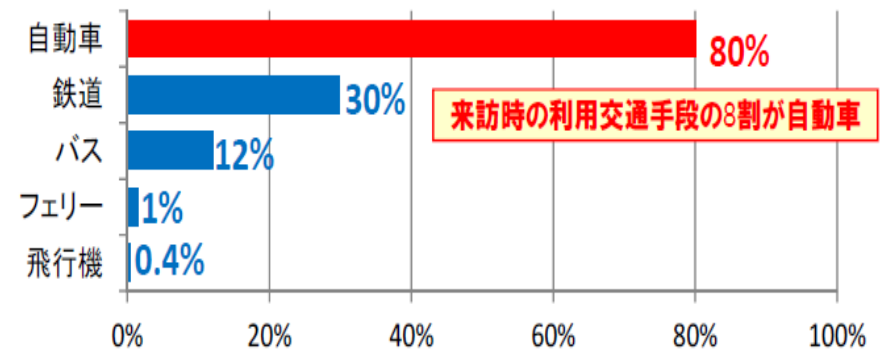


■主な交通事業者

鉄道	JR東日本、JR東海、伊豆急行、伊豆箱根鉄道	5路線
バス	東海自動車グループ、伊豆箱根バスグループ	390系統
タクシー	伊豆急東海タクシー、伊豆箱根タクシー等	約250台

■伊豆半島来訪時の利用交通手段

(移動に利用した交通手段をすべて回答(複数回答可))



【別添7】「Izuko」で変わる伊豆の旅(イメージ)

《首都圏》

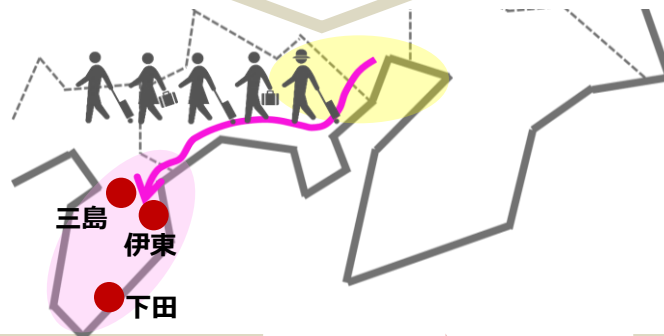
各種媒体で
集中的PR
「スマホ1つで
伊豆の旅」



静岡デステーションキャンペーン

2019.4.1①-6.30②

多くのお客さまを
伊豆へいざなう



《伊豆》

これまで

きっぷ



紙のきっぷ

地図



紙の地図

支払



紙幣+小銭



- ✓ チケットレス
- ✓ ペーパーレス
- ✓ キャッシュレス

これから



(スマホ上の)
・デジタルチケット
・デジタルマップ



クレジットカード